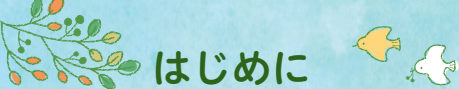




しまね  
**脱炭素**  
チャレンジ集

～ 2020 学生 編 ～





## はじめに

2015年、国連の会議において「気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定」（パリ協定）が採択され、産業革命前からの世界の平均気温上昇を「2度未満」に抑える目標が示されました。この目標を達成するため、政府は2030年度に温室効果ガスの26%減（2013年度比）を目指しています。

こうした気候変動問題と、地域課題（人口減少社会等）の同時解決を目指す社会モデル「脱炭素社会」づくりを進めるうえで、手がかりとなる県内児童・生徒・学生の取り組みを、島根県地球温

暖化防止活動推進員がインタビューし、この事例集をとりまとめました。

また、2015年の国連サミットにおいて、SDGs（持続可能な開発目標）が掲げられ、国内外で本格的に推進されています。2030年をゴールとするSDGsの実現に向けた取り組みとしても、紹介しております。

この事例集をきっかけに、地球を守る地域活動に興味・関心を持っていただければ幸いです。

公益財団法人しまね自然と環境財団  
（島根県地球温暖化防止活動推進センター）





- 2 SDGs 解説
- 3 島根県地球温暖化防止活動推進員とは
- 4 事例 01 焼き畑で里山（自然と人の生活）を維持する  
島根大学 里山管理研究会
- 5 事例 02 有機農業に取り組む若者たち  
島根県立農林大学校 有機農業専攻
- 6 事例 03 地域とつながるエコ活動を続けています  
島根県立大学 環境倶楽部 「しまえっこ」
- 7 事例 04 波力発電用タービンに関する研究開発  
松江工業高等専門学校 機械工学科 高尾学研究室
- 8 事例 05 世界中のひとが笑顔になれる WORLD  
島根県立横田高等学校 第二寮
- 9 事例 06 畜糞の堆肥プラント使用による資源循環  
島根県立出雲農林高等学校 動物科学科
- 10 事例 07 出雲発!! 漂着ゴミ問題  
出雲西高等学校 インターアクトクラブ
- 11 事例 08 シンプルキャパを使った太陽光ベンチの製作  
島根県立江津工業高等学校  
建築・電気科 3年生電気コース課題研究
- 12 事例 09 パンダノン島の海を救おう!  
明誠高等学校 留学チーム
- 13 事例 10 地域の絆ー未来を照らすー～緑の少年団活動～  
大田市立高山小学
- 14 事例 11 自分たちがやらなければ地球がやばい!  
益田市立吉田小学校
- 15 参加推進員コメント
- 16 「しまね脱炭素チャレンジ集 ～2020 学生 編～」作成のため協力いただいた島根県地球温暖化防止活動推進員





- 

**1 貧困をなくそう**  
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 

**2 飢餓をゼロに**  
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 

**3 すべての人に健康と福祉を**  
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 

**4 質の高い教育をみんなに**  
すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 

**5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る**
- 

**6 安全な水とトイレを世界中に**  
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 

**7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**  
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 

**8 働きがいも経済成長も**  
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する
- 

**9 産業と雇用創出を強靱にする**  
強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
- 

**10 人や国間の公平を促進する**  
国内および国家間の格差を是正する

- 

**11 住み続けられるまちづくりを**  
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする
- 

**12 つくる責任 つかう責任**  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 

**13 気候変動に具体的な対策を**  
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 

**14 海の豊かさを守ろう**  
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 

**15 陸の豊かさも守ろう**  
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 

**16 平和と公正をすべての人に**  
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 

**17 パートナーシップで目標を達成しよう**  
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

**SDGs とは？**  
Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える問題を 17 の目標と 169 のターゲットに整理したもの（2015 年 9 月に国連で採択）。2030 年までに、政府、企業、地域社会のあらゆる人が、SDGs を実現するための役割を担っている。

“持続可能な開発目標”国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所。  
<https://www.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html>（参照 2019-09-10）



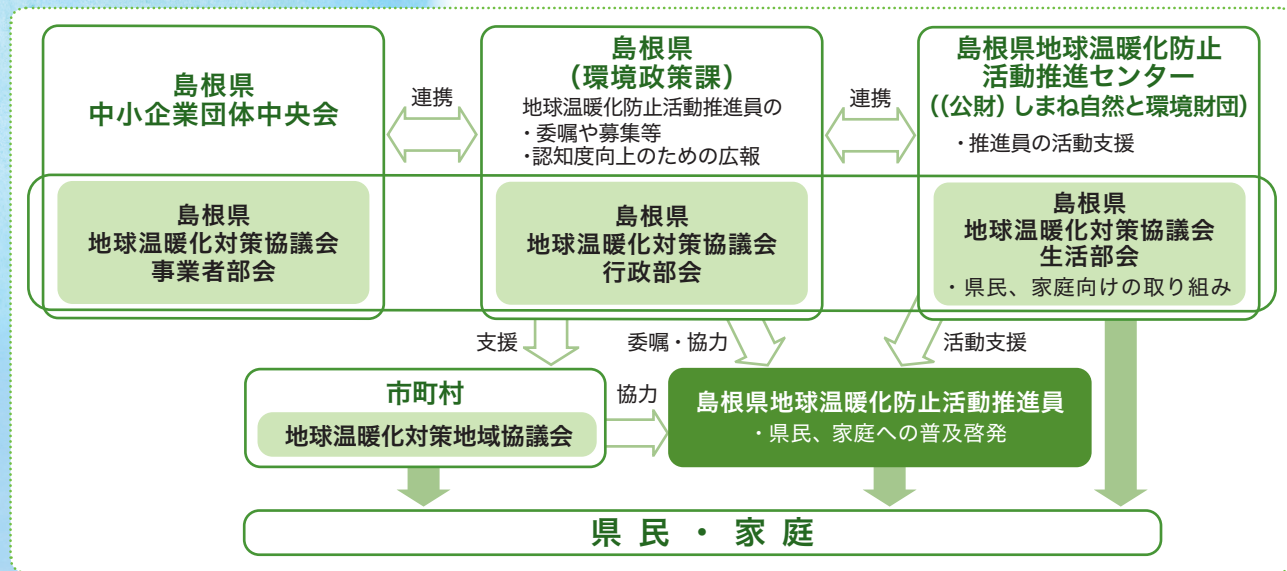
# 島根県地球温暖化防止活動推進員とは



島根県地球温暖化防止活動推進員（以下、推進員という）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第 37 条の規定に基づき、島根県知事が委嘱をした方です。

推進員は、自ら率先して日常生活における地球温暖化防止対策を実践するとともに、地域における温暖化対策を推進す

るリーダーとして、県、市町村、島根県地球温暖化防止活動推進センターなどと連携し、地球温暖化防止の重要性を県民に伝え、地球温暖化防止につながるきめ細やかな対策の普及・啓発につとめることで、県民の中に地球温暖化防止の意識や取り組みを浸透させる役割を担います。





事例

NO. 01

# 焼き畑で里山（自然と人の生活）を維持する

島根大学 里山管理研究会

活動テーマ / SDGsゴール



丸一日がかりの火入れ

活動内容

里山管理研究会は、2014年12月から動き出し、2015年に初めて焼き畑に取りかかる火入れをしました。雲南で行う山作業実践と大学内で行う勉強会の両輪で動いています。

焼き畑は、竹が邪魔になっていることを逆にとり、荒れる山林の整備に役立つつ竹林の拡大を止める中山間地域に適した数少ない手法です。竹林に火入れし、竹灰から供給された窒素・リン酸・カリを利用して栽培します。さつまいもなどの作物は、生い茂った葉が自然のマルチとなるから除草は必要ありません。1年ごとに新たに焼き畑を行って場所を変えています。また、来年は2年目の作物として小豆を栽培する予定です。

大変なのは、火入れの為に、伐採した竹が燃え易くなるように半年がかりで並べることです。当地区では、以前より森林組合などが中心となり、焼畑を実践しておられました。



焼畑の栽培作物キヌア

check  
活動ポイント

茂ってしまった裏山と、人家や畑との間に手を入れスペースを作ることで、鳥獣被害を抑えられます。竹害で困っている地元民から、里山管理研究会に依頼して、どんどん焼き畑を進めてもらうよう期待します。

メンバーは、これから他大学との情報交換など対外的な講演やイベント・収穫した作物を共に食べる収穫祭を行い、チャンネルを広げていきたいと考えています。 小池名誉教授を囲んだメンバー



活動団体 DATA

活動団体名:

島根大学 里山管理研究会

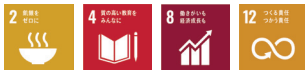
URL : <https://ja-jp.facebook.com/satoyamakanrikenkyukai/>

事例

No. 02

# 有機農業に取り組む若者たち

活動テーマ / SDGsゴール



有機農業に取り組む学生さん

## 活動内容

学生は自分たちで計画し、野菜を栽培しています。藤原君はブロッコリーと白ネギ、山野君はジャガイモとキャベツ。山口県出身の中野君は、スナップエンドウと葉もの野菜です。将来は、農業を志し、農業技術員や、農業高校の助手も視野に入れています。

日本では有機農業を行っているのは0.2%にすぎず、有機農業はかなり厳しい状況であると言っていました。また、有機農業は安心安全な野菜ができるのに、消費者から「野菜が小さい」「野菜に穴があいている」など不満を言われるそうです。「野菜に穴があるからこそ安全なんですよ。」と言ってもわかってもらえない、というギャップを感じています。

野菜を、講義で習った通りに作っても、気候の変動や雨の影響もあり、収穫がうまくいかないこともあるようです。



一つひとつ大切にしてお荷

## check 活動ポイント

欧州では、有機栽培はオーガニックと呼ばれています。消費者は、オーガニック野菜を喜んで買い、野菜に穴があいているのは、安全な証拠と言います。政府も有機栽培には多額の援助をし、環境にやさしい循環型の農業を目標としています。欧州の農業は、はるかに進んでいるのです。日本とは格段の差です。しかし、この3人の若者は前向きでした。消費者に文句を言われても、私達は欧州のような循環型の環境にやさしい農業を行いたい。どんな困難があっても有機農業を日本に定着させたいという意欲は素晴らしいものがありました。

安心安全な野菜を栽培しています



## 活動団体 DATA

活動団体名：  
島根県立農林大学校 有機農業専攻

住所：島根県大田市波根町 970-1

電話：0854-85-7011

URL：<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/kikan/norindaigakko/yuki/>

事例

No. 03

# 地域とつながるエコ活動を続けています

島根県立大学 環境倶楽部「しまえっこ」

活動テーマ / SDGsゴール



カフェテリアに貼りだしたゴミの分別方法

活動内容

「環境について学び、環境を守る活動を行い、地域との交流を深める」ことを目的に、2001年12月に設立され、現在会員は16名。1人ではできないことも、みんなで一緒ならできるのではないかと考えて活動しています。

大学内のカフェテリアにある、ゴミ箱の分別方法が学生によくわかるように、また居住地でもきちんと分別できるように、という思いをこめて分別種類のポスターを作り貼っています。地域イベントでは、来場者に分別方法を説明しました。

本流にゴミが多く見受けられた浜田川の水質を知りたいと、2019年9月に4つの支流を対象に水質調査を行いました。調査結果は比較的きれいで、10月の「海遊祭(学園祭)」で、地域の方や学生に解説しました。

金城町の小、中、高校生と連携して、島根県で絶滅危惧種に指定されている日本一小さいトンボ「ハッチョウトンボ」を守る環境整備(草刈りなど)をしています。



調査結果をパネルにまとめました

check  
活動ポイント

島根大学、広島修道大学の学生と活動について意見交換をしました。浜田市内でも、いろいろな環境系の団体がいくつかありますが、誘い合って清掃活動や講習会などをすると、もっと大きなイベントや啓発ができると思います。

これからも、「いろいろ活動を広げて地域の方と交流を図りたい」と、語ってくれました。

水質調査の様子



活動団体 DATA

活動団体名：  
島根県立大学 環境倶楽部「しまえっこ」

住所：島根県浜田市野原町 2433-2  
島根県立大学 浜田キャンパス

URL：<https://twitter.com/jkv9r4mf50wblgj>



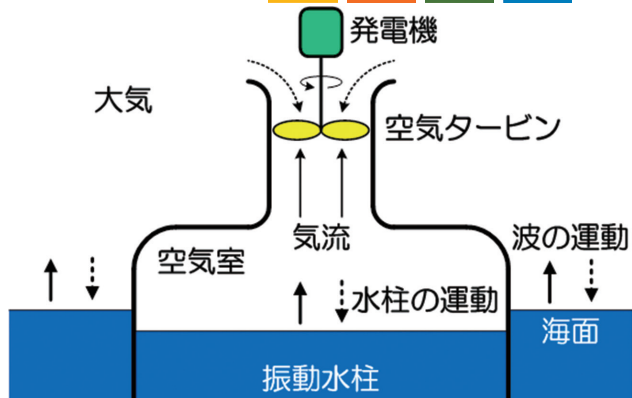
事例

No. 04

# 波力発電用タービンに関する研究開発

松江高専 機械工学科 高尾学研究室

活動テーマ / SDGsゴール

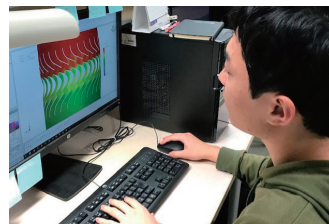


振動水柱型空気タービン方式波力発電の原理

活動内容

資源に乏しい日本で、深刻な地球温暖化問題の解決のため、高尾研究室では、海に囲まれた日本で「波浪エネルギーを利用する波力発電」の研究を進めています。国際的にも波浪エネルギーの開発は200年以上前から始まり、国内ではエム・エムブリッジ株式会社、佐賀大学等との共同研究として、山形県酒田港で実証実験を実施。波浪エネルギーを回転エネルギーに変換する「振動水柱型空気タービン方式」の開発を中心に進めています。

また、県内の小学高学年と保護者を対象に波力発電を題材とした理科教室を毎年開催し、特殊な空気タービン（羽根車）の工作や発電装置の実験を通して、エネルギーや温暖化問題について考えるきっかけになればと思っています。



波力発電用空気タービンの性能シミュレーション

check 活動ポイント

日本周辺の波浪エネルギーは日本の総電力の3分の1に相当し、なんと太陽光の20～30倍のエネルギーがあります。実証実験を通し、コスト低減や騒音問題、漁場の確保はある程度解決されます。今後離島などでの実用化に向けて研究開発が続きますが、有望な自然エネルギーとして脚光を浴びる時期が来るので、若い技術者が育つことに期待します。

波力発電装置の模型による発電実験



活動団体 DATA

活動団体名：  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
松江工業高等専門学校

住所：島根県松江市西生馬町 14-4

電話：0852-36-5111

URL：<https://www.matsue-ct.jp/m/>



事例

NO. 05

# 世界中のひとが笑顔になれる WORLD

島根県立横田高等学校 第二寮

活動テーマ / SDGsゴール



あるべき未来の姿と今すべきこと

活動内容

第二寮には、全国から横田高校に集まった12名が生活をしています。この世代にとって、「エコ」は身近にある言葉なのに、具体的な行動には、まだつながっていません。

この秋、SDGsを学び、あるべき未来の姿を描くワークショップをしました。そこで、日常生活ですべきことをイメージし、「3Rを発展させた17R」「マイバック」「エネルギーの使い方を工夫する」「思いやりを持ち相手を尊重する」ことなどを宣言しました。学びが深まるにつれ、贅沢をしているという自覚を改めて持ち、寮生活に必要な分だけ使う節電や節水、暖房の設定温度を見直しました。また、友達の良いところを探すなど人間関係も学びました。



世界の問題、勉強中

check  
活動ポイント

この世代は、正しい情報を伝えれば、吸収し、それぞれが行動で答えてくれます。

SDGsが目指す「持続可能な未来」に向かう道のりとして、まず、“地球や自分たちの未来について考えること”が、日本の半分で当たり前になるイメージを伝えました。続けることが大事なので、次に、“面白いアイデアで楽しめて続けられる”ように計画して、自分に合ったやり方をします。学校の行事でやると、さらに気づくことが多いし、達成感もあり、楽しいです。

必要な分だけ使う



活動団体 DATA

活動団体名:

島根県立横田高等学校 第二寮

住所: 島根県仁多郡奥出雲町稲原 2178-1

電話: 0854-52-1511 (代表)

URL: <http://www.yokota.ed.jp/>

事例

NO.06

# 畜糞の堆肥プラント使用による資源循環

島根県立出雲農林高等学校 動物科学科

活動テーマ / SDGsゴール



畜糞連続発酵装置に畜糞を運びます

活動内容

出雲農林高等学校では、農業分野の温室効果ガス排出削減につながる活動として、堆肥プラントにより家畜糞尿を堆肥化し校内農場で再利用する資源循環の取組みを行っています。1日当たり最低300キロ以上排出される家畜糞尿を、濾過装置で液状部分と固形部分に分離し堆肥にして、液状部分は校内牧草地に固形部分を畑地に散布し還元しています。化学肥料を使わず、環境にもやさしい堆肥で育てた作物は、消費者に好評を得ています。土づくりのため堆肥の効能が見直され、自然循環のモデルにもなっています。

今後は、コスト面の課題や仕組みを解決しながら、家畜糞尿以外の尿尿や生ごみ処理にも応用できる可能性を示唆していただきました。



きれいになった牛舎

check 活動ポイント

家畜の“げっぷ”など、農業由来の温室効果ガスは無視できない。堆肥ができる、糞尿がきれいな形になるのを見ると自然循環の力と素晴らしさを感じる。

同じ高校生の環境活動家『グレタ・トゥーンベリ』さんが、大人たちの姿勢を、口先でなく行動で指摘する姿はすごい。環境への幅広い関心と活動が必要だ。」と、畜産を学ぶ3年生の岸さんは語っていました。環境に配慮した、自然循環と再資源化の事例です。

大切に育てています



活動団体 DATA

活動団体名：

島根県立出雲農林高等学校

住所：島根県出雲市下横町 950 番地

電話：0853-28-0321

URL：<http://www.izuno.ed.jp/>



事例

NO.07

# 出雲発!! 漂着ゴミ問題

出雲西高等学校 インターアクトクラブ

活動テーマ/SDGsゴール



海岸清掃の様子

活動内容

創部 54 年という歴史ある活動に取り組んでいるインターアクトクラブは、年 5 回の海岸清掃を中心に、「森づくり」「環境保全」「地域社会への奉仕」「国際理解」に取り組んでいます。海岸清掃の目的は、率先して自ら行動し、捨てた人に綺麗な海岸を理解してもらう「Win-Win」の活動。山積みごみを撤去し、見違える状態になると“やりがい”を感じます。

そのごみをデータ分析すると、国内よりハングル語、中国語のものが多く、韓国の中高一と一緒に海岸清掃や討論会を開催して、ごみ問題に取り組んでいます。収集したごみでアート作品「令和の塔」も製作。様々な活動を通して貴重な経験ができると好評。高校生のアクティブな活動で地域社会へ一石を投じている活動です。



韓国の中高一と討論会

✓check  
活動ポイント

多岐に渡る活動実績は各方面から全国表彰を受けています。

海岸清掃では近年海洋マイクロプラスチックごみが多く見られ、削減に取り組むため、地道な清掃活動と調査結果の共有が重要とし、脱炭素社会に向けて地域社会や全国の高校へ呼び掛け、世界の人へ発信するように頑張っています。

漂着ゴミを使った令和の塔作成



活動団体 DATA

活動団体名：  
学校法人 永島学園 出雲西高等学校

住所：島根県出雲市下古志町 1163

電話：0853-21-1183

URL：<https://www.izumonishikou.jp/>

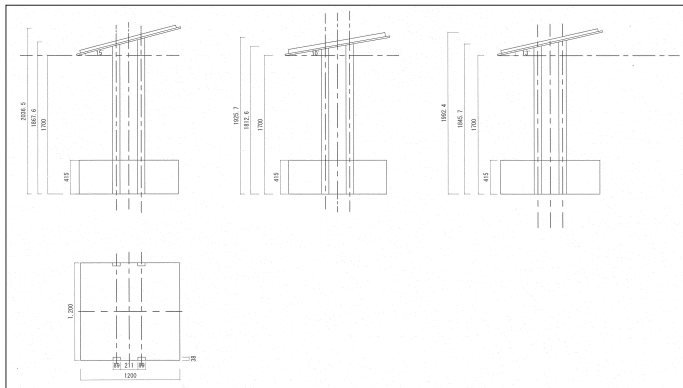
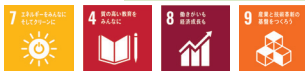
事例

No. 08

# シンプルキャパを使った太陽光ベンチの製作

島根県立江津工業高等学校 建築・電気科 3年生電気コース課題研究

活動テーマ / SDGsゴール



「CAD」で作成した図面

✓ check  
活動ポイント

研究を行っている河野君と鐵田君には、環境にやさしい太陽光ベンチで地域に貢献したい！繋がりたいたい！という熱い思いがあります。

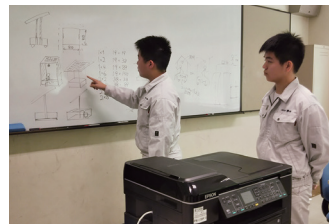
学校のバックアップを得て取り組んだ彼らの成果は、2月1日に校内で行われる課題研究発表会で発表されますが、実際に設置されれば、CO<sub>2</sub>削減の契機として期待が持てます。

太陽光ベンチのイメージ

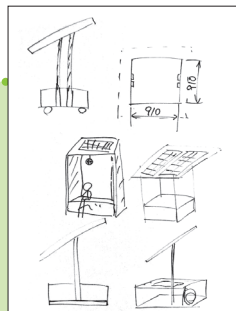
活動内容

当研究では太陽光パネルと蓄電池を利用したベンチの製作を行っています。パネルは過去の課題研究で使用したものを再使用します。蓄電池は竹害として問題になっている竹を利用した炭蓄電池（EDLCシンプルキャパ6V）とし、奥出雲町で製造している企業を視察し、2台購入しました。

現時点では、その炭蓄電池を利用したベンチの設計を、CADを用いて行っており、今後、実際に試作を行う予定です。さらなる改良点としては、オプション（コンセント）の位置、パネルの傾斜角度、ベンチの幅、持ち運びを可能にするキャスターの取付けなどが挙げられます。最終的には夜間の照明や携帯電話の充電ができるものを目指しています。



担当する生徒さん



活動団体 DATA

活動団体名：  
島根県立江津工業高等学校 建築・電気科  
3年生電気コース課題研究

住所：島根県江津市江津町 1477

電話：0855-52-2120

URL：<https://www.gotsu-th.ed.jp/>



事例

NO.09

# パンダノン島の海を救おう！

明誠高等学校 留学チーム

活動テーマ / SDGsゴール



活動内容

「天国に一番近い島」フィリピンセブ島北西部にある小さなパンダノン島、離島スラムでは、食糧や生活用品が土に戻る物で作られていたので、ゴミは全て戸外に破棄する文化がありました。現在は、プラスチック製品が輸入されても今まで通りゴミとして破棄することにより、食糧のほとんどを得ている大切な海を汚染してきています。

明誠高等学校の留学チーム5人は、大切な海を守る為にはまずゴミの分別が必要ではと気づき、理解しやすいように絵を工夫し英語での紙芝居を製作しました。英語を更に島の言葉に通訳して、小学校で発表を行い温暖化防止活動の啓発ができました。今後も継続していきたいと思っています。



小学校でゴミの分別が大切な海を守る事話しています



キヌヤでパンダノン島の子ども達への寄付を呼び掛けています

check  
活動ポイント

留学チームは日本の文化と部活で行っている卓球も伝えたい、子ども達に文房具も寄付したいと考え資金集めにキヌヤ、ロータリークラブ、学校で募金活動と呼びかけ 101,355 円と沢山の文房具が集まりました。その募金の一部で現地にて卓球台を作ってもらい子ども達に指導も行いました。残ったお金は現地のボランティアに預け海上スラムに SDGs の理念「誰一人取り残さない」を実践する資金としました。大きな活動に感動しました。

現地で作っていただいた卓球台を使って小学生に指導しています



## 活動団体 DATA

活動団体名：  
学校法人益田永島学園 明誠高等学校  
住所：島根県益田市三宅町 7-37  
電話：0856-22-1052  
URL：<http://www.meisei-masuda.ed.jp>

事例

NO. 10

# 地域の絆 - 未来を照らす ～緑の少年団活動～

大田市立高山小学校

活動テーマ / SDGsゴール

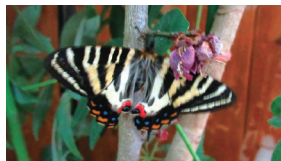


緑の少年団（6年生の団員たち）

活動内容

平成5年に結成された緑の少年団は、学校林づくりを主とした活動を26年間し続け、令和元年みどりの奨励賞\*1を受賞し大きく発展しています。特にSDG15-5\*2の活動が、統廃合を経た小学校に継承されていることに価値があります。

主な内容は①絶滅危惧種のギフチョウとイズモコバイモの生育・栽培・保全②森林教室での森を守る活動などです。39名の団員が年間16回、20時間継続的に行い、ギフチョウの羽化とイズモコバイモの開花に成功。これらの活動は、SDG15の目標に留まらず、目標4\*3へと広がっています。同時に、大江高山地域の特性を生かした活動は、生命の循環や自然と人間との共生を図り、脱炭素地域へと発展する実践教育となっています。



羽化に成功したギフチョウ

\*1 みどりの奨励賞：公益社団法人国土緑化推進機構（www.green.or.jp）より顕彰

\*2 15-5:15 陸の豊かさを守ろう  
15-5: 5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を防止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。

\*3 質の高い教育をみんなに

check  
活動ポイント

子ども達は、緑の少年団活動を通じて自然環境の保持や持続性の大切さを学び成長しています。そして、この環境活動が地域教育となり、地域力向上の役割も果たしています。学校林の活動は、森林の再生であり、CO<sub>2</sub>吸収源の役割を高めるものです。今後、子ども達が成長する過程において、この体験が社会や暮らし方との関係で重要なものとなるでしょう。

学校林にヤマザクラの植林



## 活動団体 DATA

活動団体名：  
大田市立高山小学校 緑の少年団

住所：島根県大田市水上町白環 140

電話：0854-89-0627

URL：<https://www.ohda.ed.jp/>



事例

NO. 11

# 自分たちがやらなければ地球がやばい！

益田市立吉田小学校

活動テーマ / SDGsゴール



中州の浜で漂流物調査

活動内容

大きなきっかけは、アクアスの出前授業でウミガメの話聞いたことでした。校区にある、かつてウミガメが来ていた「中州の浜」の漂流物調査で大量のゴミを収集。地域のNPO アンダンテ 21 やコアラッチの話で、自分たちの暮らしが地球に住む生き物にも影響を及ぼしていると知り、心を痛めました。特にマイクロプラスチック。生活を見直さないと！早く対応をしないと大変なことになる“地球がやばい！”を感じた瞬間です。地元材でマイ箸作り、環境日記「みどりの小道」をつけ、給食の残飯を2回調査し食べ残しが減少、地球温暖化をテーマに新聞へ投稿しました。冬休みはクラスや学年で目標を決め、家族でクールチョイスに取組みました。エアコンや扇風機の付けっ放し、節電や節約を積み重ねました。日々地球を意識しています。その後、取組を全校生徒に向け発表。行動を呼びかけました。



地元の木で作った鉛筆削りの活動

check  
活動ポイント

みっちり調べて→取り組み→拡散→を繰り返しました。児童は、「映画"earth"を視聴したい。」「考え行動したい。」「クールチョイス頑張りたい、広めたい！」等々の感想でした。気象災害に想いを呼び起こし、鉛筆削り活動で再度、刺激をもらいました。地域のNPOや自治体に教えてもらい、一緒に動いてもらったことが良い結果に、とは、先生たちの弁です。

活動団体 DATA

活動団体名：

益田市立吉田小学校

住所：島根県益田市中吉田町 272

電話：0856-22-2385

URL：[http://www.iwami.or.jp/yoshi\\_s/](http://www.iwami.or.jp/yoshi_s/)





## 石原 孝子

取材から見えた学生たちは、内容は様々ですが、共通していたのは、身近な環境改善のために、楽しみながら、自ら行動し、周りを巻き込み、影響を与えていくという、生き生きとした姿が見受けられ、将来に期待が持てました。

## 伊藤 和雄

学校全体で取り組んでいることにすばらしさを感じました。

また、地域を巻き込んだ地道な検証が成果に結びついています。この自然保護や環境学習は、持続可能な地域を醸成するものとして確かな位置を占めるでしょう。

## 藤原 薫代

普段接することのない次世代とじっくり話ができる貴重な時間でした。

高校生が知識をスポンジのように吸収して行動に変えていく様子や、大学生が中山間地域の将来や自分の就職を見据えて活動する姿を頼もしく思いました。

## 柳 樂 利子

環境問題の現況に深く関心を持ち実践している学生や、現在の状況を充分には把握していないが、学びを通して課題を分析しながら問題解決に迫ろうとする学生もいました。

今回のインタビューを契機に、彼らが、脱炭素社会推進の意識を高め、今後の活動に生かしていくことを期待します。





「しまね脱炭素チャレンジ集 ～2020 学生 編～」作成のため  
協力いただいた島根県地球温暖化防止活動推進員

五十音順／敬称略



安部 利昭  
石原 孝子  
伊藤 和雄  
大橋 美津子  
小川 律子  
清水 妙子  
曾田 忠教  
坂東 朋子  
常國 文江  
長坂 玲子  
長野 澄子  
柳樂 利子  
新田 良一  
藤原 薫代  
安田 邦彦  
渡辺 紀美枝  
渡部 學

---

## しまね脱炭素チャレンジ集 ～2020 学生 編～

発行日 令和2年1月30日

発行先 しまねエコライフサポートセンター  
島根県地球温暖化防止活動推進センター  
公益財団法人しまね自然と環境財団松江事務所  
〒690-0887 島根県松江市殿町8-3  
島根県市町村振興センター（タウンプラザ しまね）2階  
TEL 0852-67-3262 <http://nature-sanbe.jp/eco/>

---

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金  
（地域における地球温暖化防止活動促進事業）





この冊子はすべてユニバーサルデザインフォントを使用しています。